

ぞうしがやがたんけん

〜雑司ヶ谷霊園開園150周年記念編〜



東池袋四丁目停留場

東京さくらトラム
(都電荒川線)

雑司が谷交番 花屋 秋元

都電雑司ヶ谷停留場

御鷹部屋推定場所

しが たいざん
志賀 泰山

ながた すずむ
永田 年

はに もとこ
羽仁 もと子

ちょうこう たいすけ
長郷 泰輔

たかはし のぶこ
高橋 展子

なるせ じんぞう
成瀬 仁蔵

ルドルフ
・レーマン

雑司ヶ谷霊園
管理事務所

崇祖堂

さの としかた
佐野 利器

ラファエル
・ケーブル

なつめ そうせき
夏目 漱石

比花亭

御嶽山 清立院

白鳥稲荷大明神

雑司が谷保育園
雑司が谷区民集会所

こばやし ぶんじ
小林 文次

雑司が谷旧宣教師館

この冊子は、日本女子大学 家政学部住居学科の学生の視点から、雑司ヶ谷の魅力を紹介するために、雑司が谷未来遺産推進協議会の活動の一環として作成したものです。



霊園に眠る人物紹介

住居学生が注目した

日本女子大学に関係のある人物

成瀬 仁蔵

日本女子大学創設者および初代校長
女子教育の発展に貢献した教育家
女子の高等教育の重要性を訴えるため「女子教育」を出版し、女性が自立し活躍する社会を目指し、世論に対して喚起を行いました。当時の日本女子大学では、かつて女子教育とされてきたものを「家政」という学問として確立し、理科教育に重点を置いた教育が行われました。また「実践倫理」の講義では、国内外に渡る幅広いテーマについて成瀬仁蔵自らが講話を行いました。
日本女子大学創立後は、政府の教育関係委員として活躍しました。

ラファエル・ケーベル

ロシア出身の音楽家・哲学者
明治26年(1893)に明治政府のお雇い外国人教師として来日し、長きにわたり東京帝国大学(現・東京大学)で哲学・美学・西洋古典学を講じました。
ケーベルは、モスクワ音楽院を卒業したピアノリストでもありました。その為、東京音楽学校(現・東京藝術大学)ではピアノ・音楽史を講じ、また日本最初のオペラ公演では、ピアノの伴奏を務めました。また、明治34年(1901)には、日本女子大学校(現・日本女子大学)開校式の「日本女子大学校開校式祝歌」を作曲しました。

女性の地位向上に貢献した人物

高橋 展子

労働官僚・日本初女性大使
女性職業財団会長
連合国軍最高司令官総司令部で勤務した後、昭和22年(1947)に労働省に入省し、昭和55年(1980)から日本初の女性大使として駐デンマーク特命全權大使に任命されました。また、同年に開催された「国連婦人の10年」中間年世界会議において首席代表を務め、「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」に署名し、日本における女性の地位向上に大きく貢献しました。昭和59年(1984)に開催された「NSC」地域婦人会議では、首席代表として選出され議長を務めました。

羽仁 もと子

婦人之友社及び自由学園の創立者
明治36年(1903)に女性雑誌「家庭之友」を創刊し、その翌年には家計簿を刊行しました。明治41年(1908)には、「家庭之友」を「婦人之友」へと改題し、婦人之友社を設立しました。
その後、大正10年(1921)に読者の子への家庭的な教育を目指し、当初は女学校として東京の旧目白(現・西池袋)に自由学園を夫の吉一とともに創立しました。本建物は、平成9年(1997)に「自由学園明日館」として国の重要文化財の指定を受け、多くの人が来館しています。

日本の建築発展に貢献した人物

長郷 泰輔

建築家
横浜に在るフランス人建築技師ジュール・レスカスとオーストリア出身の建築家スモドレーに建築技術を学びました。その後は建築会社を設立し、明治17年(1884)3月から7年の歳月をかけてニコライ堂建設の総工事監督を請負いました。その他にも、フランス大使館・ロシア大使館・第二回帝国議会議事堂の施工を担当しました。

佐野 利器

建築家・建築構造学者
建築の耐震工学に多大な寄与をして、日本における建築構造学の基礎を築きました。
建築法規の制定に関わり、大正8年(1919)に旧法「都市計画法」と建築基準法の前身である「市街地建築物法」の制定に関わりました。また、帝都復興院理事および建築局長に就任し、関東大震災後の復興事業・土地区画整理事業に貢献しました。

ルドルフ・レーマン

ドイツ出身の造船技術者
土木工学者・独和辞書編集
建築・造船などの工業技術を身につけて明治2年(1869)に来日し、外国語や数学、建築などの教育を行い数多く人材を育成し、京都府の殖産興業にも寄与しました。
また、和訳独逸語辞書を4冊出版し、明治10年(1877)年には日本で初めての和独辞典とされる「和独対訳字林」を校訂しました。

永田 年

土木工学者・内務官僚
台湾総督府
内務省と台湾総督府を経て、昭和28年(1953)から戦後復興期の最大の電源開発事業である佐久間ダム・発電所の建設事務所長を務めました。佐久間ダム・発電所は、日本で初めて大規模な土木機械を導入し、土木業界に大きな影響を与え、わずか3年という短期間で完成し、ダムの運転が開始されました。

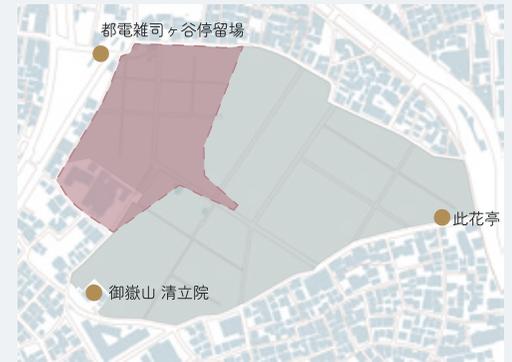
志賀 泰山

日本初の林学博士の一人
物理学者・化学者
東京帝国大学教授・農商務省山林局営林技師などを務め、官林経営の基礎づくりに貢献しました。農商務省退官後は、木材防腐の研究に専念し、木材保存に関する多くの特許を取得しました。
また、志賀が確立した防腐技術は昭和28年(1953)の木材防腐特別措置法の制定に繋がりました。

小林 文次

建築史家・工学博士
平安時代の阿弥陀堂建築を中心に研究し、日本大学教授として西欧も含めた建築史を講じました。また、5年にわたる古代メソポタミア建築の研究を著書「建築の誕生」に結実させ、工学博士の学位取得とともに、建築学会賞を受賞しました。さらに、日本建築学会理事やイコモス(国際記念物遺跡会議)理事を務め、国際的にも活躍しました。

雑司ヶ谷霊園のむかし



現在の地図から見た御鷹部屋 推定場所

雑司ヶ谷霊園は、明治期に活躍した著名人が眠る場所として知られており、現在も多くの人が散策に訪れています。

霊園開設前の江戸時代では、「御鷹部屋」と呼ばれる江戸幕府の土地が位置し、役人たちが勤めていました。明治時代に入ると、御鷹部屋の敷地が使用されなくなった為、霊園として活用されることになりました。その後、徐々に拡張され現在の霊園敷地に形成されました。

御鷹部屋

御鷹部屋とは、将軍が鷹狩りに際に用いる鷹の飼育・訓練施設のことを指します。雑司ヶ谷の他に、下駒込や千駄木に存在しました。

雑司ヶ谷御鷹部屋は、徳川八代将軍の吉宗により享保4年(1719)に設置されました。天保元年(1830)に書かれた「新編武蔵風土記稿」の記録では、広さが9088坪と、現在の霊園西側の約1/4の大きさでした。

訓練空間の活物場

御鷹部屋における鷹の訓練施設として「稻荷之原活物場」が設置されました。広さは約2400坪で、鷹狩りの技術を高める為、様々な専門設備を用いた訓練が行われていました。また、東・南・北の3方向と西側の一部に杉が植林され、実践的な状況に近い環境を作り出す工夫がされていました。

活物場

雑司ヶ谷御鷹部屋の敷地には、「活物場」と呼ばれる施設が2箇所存在し、それぞれが固有の役割を果たしていました。江戸時代末期に御鷹部屋の活物場部分が描かれた「雑司ヶ谷御鷹部屋内活物場絵図」によると、合わせて広さ約4400坪と御鷹部屋敷地全体のおよそ半分を占めていました。

将軍を迎える活物場

御鷹部屋における将軍を迎えるための空間として「御土蔵原活物場」が設置されました。広さは約2000坪で、「御成御門」や「御座所入口切戸」などの将軍御成り用の施設が存在しました。

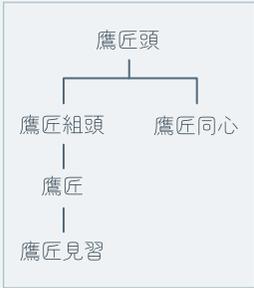
実際に、享保6年(1721)8月11日には徳川吉宗が訪れて、小休止をとっていた記録が残されています。

御鷹部屋に勤めた役人

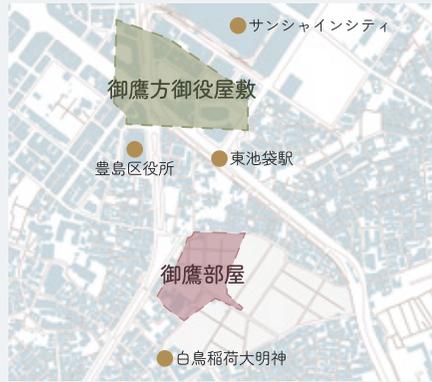
御鷹部屋には、「鷹匠」と呼ばれる役職に就く役人たちが常時60〜100人程勤めていました。

鷹匠は、鷹の飼育・訓練を行い、鷹狩りに従事する役人のことを指します。訓練では様々な環境下で「鷹を獲物に向かって放ち、鷹が捕獲して戻る」という一連の動作を繰り返すことが行われました。

鷹は、かつて朝廷から預かった動物で、将軍も「御鷹」と呼ぶ程の特別な存在であり権力の象徴でした。その為、鷹狩りという行為そのものが覇者の特権と認識され、将軍の鷹を預かり訓練を行う鷹匠は、庶民にとって非常に権威ある存在でした。



雑司ヶ谷御鷹部屋に勤めた役人組織図



現在の地図から見た御鷹部屋と御鷹方御組屋敷の推定位置関係

役人の住まい

鷹匠たちは、御鷹部屋と同年に設置された「御鷹方御組屋敷」と呼ばれる組屋敷に居住していました。組屋敷は現在の豊島区役所付近に位置し、御鷹部屋から約400m離れた場所に存在していました。約1万5000坪と広い敷地には屋敷や長屋が複数ありました。鷹匠たちは、住まいと仕事場を区別して生活を送っていました。

白鳥稻荷大明神

南池袋4丁目2番地7号に位置する「白鳥稻荷大明神」は、かつて「白鳥稻荷」という名称で御鷹部屋敷地内に所在していました。神社境内に存在する手水鉢は、安永7年(1778)の初午の日に、石製の鳥居は文化6年(1809)の初午の日に、御鷹部屋に勤める役人たちが中心となって奉納したものです。長い年月が経った現在も御鷹部屋内に所在した当時のものが設置されています。

また、天保11年(1840)に御鷹部屋に勤める役人が書いた随筆日記には、例年初午の日や二の午の日に大々的に神楽を奉納し、赤飯などを振舞っていたことが記録されています。

これらのことから、御鷹部屋に勤める役人と白鳥稻荷の間には、日常的な付き合いが存在したととも、白鳥稻荷は役人たちが中心となって信仰されていたことが分かります。

霊園周辺に残る江戸時代の面影

御鷹部屋開設から約300年の歴史をもつ雑司ヶ谷霊園。霊園周辺には、御鷹部屋が存在した江戸時代の道路に関する説明板が設置されています。霊園に訪れた際には、ぜひ探してみてください！

都市の中の雑司ヶ谷霊園

開園150周年を迎える雑司ヶ谷霊園は、現代においてどのような価値を持つのか
周辺地域との比較や、霊園内の自然環境などから考察してみました。

文化・芸術施設や
商業施設などが多い池袋駅周辺



地域の歴史・文化や
豊かな自然が残る雑司ヶ谷地域

雑司ヶ谷霊園周辺の緑地や施設

雑司ヶ谷霊園は、サンシャイン60の開業を機に、
抜け道として使われることが多くなったといわれ、
地域の特徴の変化は、雑司ヶ谷霊園にも影響を
与えていると考えられます。そのため、まずは
池袋駅周辺の池袋東地域と雑司ヶ谷霊園を含む雑
司ヶ谷地域のまちづくりの違いから考察します。

○池袋東地域

サンシャインシティなどの商業施設やアニメイト
などの文化・芸術施設が位置しています。最近
は、「特定都市再生緊急整備区域」に指定され、
国際的な視野を取り入れた都市開発が進んでいま
す。その中で、緑を守るために公園の整備や公共
施設における屋上緑化が行われています。

○雑司ヶ谷地域

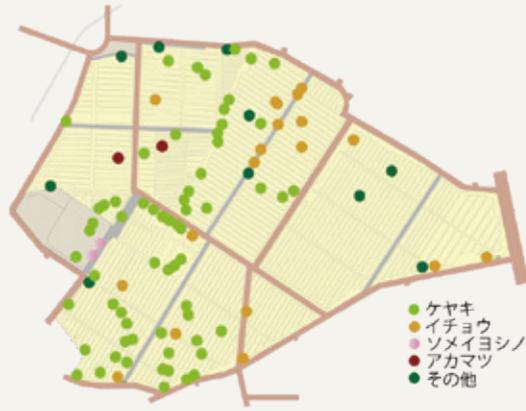
昔からの緑や歴史的な建築物が残っており、こ
れらの景観を守るために「雑司ヶ谷地域景観形成
特別地区」の指定が行われています。また、地域
コミュニティが主体となって防災拠点づくりや地
域の魅力を保つ活動が行われています。

これらのことから、地域の違いとして主に都市
開発と緑の保護のアプローチにあると考えます。
池袋東地域は都市開発と緑の共存を目指し、雑
司ヶ谷地域は歴史的な緑と静かな環境を守ること
に重点を置いています。そのため、雑司ヶ谷地域
は豊島区において、自然や緑の残る貴重な地域で
あり、静かで落ち着いた環境を残していることに
価値があるといえます。

雑司ヶ谷地域と雑司ヶ谷霊園

雑司ヶ谷地域は豊島区の中でも特に緑が
豊かな地域で、緑被率は23.3%と区内
で最も高い数値を誇ります。街を歩いてい
るとみみずくの音が聞こえたとか！

その中でも、雑司ヶ谷霊園は地域の緑の
中心的な存在で、約1200本の樹木が立
ち並び、幹周が2m以上の巨木は約100
本存在しています。これらは生態系の維持
やリラクセスにとっても効果的であり、霊園
に存在する豊かな緑は地域の中で欠かせな
い存在です。



雑司ヶ谷霊園内の樹木の種類と分布

雑司ヶ谷霊園は、歴史的空間というだけ
でなく、地域の緑を守り心身を癒す場所
であり、災害時における重要な機能も担って
います。そのため、地域の中で広大な緑を
持ち、安心・安全な生活を支える重要な拠
点といえます。

また、霊園は木造密集市街地に位置しな
がら、建物が殆どない貴重な空間となっ
ています。このことは、地域における避難場
所としての役割も果たしています。その取
り組みとして「インナーリンク構想」と呼
ばれるものがあります。これは、霊園周辺
道路の整備や万年塀を生垣にすることで、
墓地周辺が緑豊かな散策路になるだけでな
く、災害時の安全な避難路にもなります。



外周を管理する緑のこみちの会の様子
(出典：緑のこみちの会)

緑のこみちの会は、インナーリンク構想をきっか
けに、平成11年(1999)に設立された団体です。
約30年にわたり、月に1~2回霊園の外周の清掃
活動や、生垣や花壇などの管理を続けています。

これからの雑司ヶ谷霊園

これからの雑司ヶ谷霊園について、「霊
園のみどり」と「霊園再生」の2つに注
目して紹介します。

○霊園のみどりについて

豊島区では、今後緑を維持・保全して
いくことが目標となっています。
雑司ヶ谷霊園においても、豊かな緑を引
き続き守ることが大切です。特に、墓所
と近接した樹木や空洞化が進みつつある
樹木などの整理を行い、安全かつ豊かな
空間を守ることが重要になってくるで
しょう。

○霊園再生について

青山霊園・雑司ヶ谷霊園・谷中霊園・
染井霊園の4つの都立霊園は、「公園化」
のために一度墓地の貸し付けを停止しま
した。しかし現在は、墓地としての機能
を残しながら、霊園内に公園的機能を整
備する方針に変更されました。雑司ヶ谷
霊園では、61年ぶりに墓地の貸し付けが
再開されました。

今後どのようにして、霊園本来の静謐
な空間を守りながら、地域における安ら
ぎの場や災害時の避難場所として活用さ
れていくのか、見守っていきたいです！



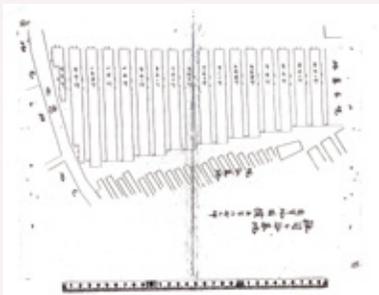
雑司ヶ谷霊園の変遷に関する研究

現在はその広い敷地と豊かな自然から、ちょっとした緑地スポットとしても親しまれている雑司ヶ谷霊園。皆さんはそんな霊園の昔の姿をご存じでしょうか。

霊園が今の形に至るまでどんな歴史があったのか。そしてかつてこの土地はどのような場所か。そこにはどのような暮らしがあったのか。雑司ヶ谷霊園に関する歴史資料や、地域の方へのヒアリングによる調査を元にその変遷を辿りました。

調査した資料

雑司ヶ谷霊園の昔の様子は豊島区などの自治体史にも一部記述がありますが、加えて今回は「東京公文書館」に所蔵の霊園に関する公文書資料を中心に調査を行いました。公文書には墓域の拡張や変更などの諸施策が、いつ、どこで、どのような経緯で行われていたのかが記されており、図面付で詳細な記録が残っているものもあります。霊園の歴史を研究する上で重要な手がかりになる資料といえます。



明治43年『二等地使用区域に編入雑司ヶ谷』より引用
この時、現在の霊園北部1種5号の一部が新たに墓地としていたことが分かります

墓地となる前の村の様子

現在の霊園の大部分は以前は畑地や宅地があり、人々が暮らす一つの集落でした。霊園が拡張されるにあたって、それらの土地が東京市(当時)に買収され、墓地となったのです。

霊園拡張以前の明治20年頃の村の地図では、当時の村の様子を知ることができます。江戸時代の村絵図や文献資料には同地域に中世から住んでいたという人物の名前も記録されており、そこには村としての長い歴史が存在していたことが窺えます。

水路があった？

近隣住人の方からのお話では、昭和半ば頃までは霊園内に水路があった記憶があるといえます。その記憶中の水路の位置と近い場所と推測される場所についての記述が旧自治体史にありました。

それによると、現在の霊園北部にあたる、かつて畑地であった地域から、現在夏目漱石の墓がある付近にあった古井戸まで水を流れていたとのこと。

村だったころの面影が戦後しばらくの間も残っていたのかも知れません。



▶明治20年の地図を元に作成

墓域の拡張の様子

雑司ヶ谷霊園は明治末期〜大正期にかけて拡張工事が進められてきました。始めは「御鷹部屋」があった所のみが墓地でしたが、徐々に南や東に向かってその面積が広がっていききました。今回の研究では一部資料が見つからなかった部分を除き、おおよそ各区域の具体的な編入年次が明らかになりました。



年	内容
明治7年	雑司ヶ谷霊園が開園
大正9年	<ul style="list-style-type: none"> ・おおよその拡張計画が完了 ・外国人墓地の一部が一般墓地に ・一部区域の等級が変更
大正11年	<ul style="list-style-type: none"> ・深川移転墓地の合葬整理 ↓空いた区域が一般墓地に ・等級ごとの使用坪数を以下に制限 二等地：2坪以内 三等地：1坪以内
昭和13年	「崇祖堂」(納骨堂)設置
昭和37年	墓所の新規貸付を停止
令和5年	墓所の新規貸付を再会

拡張後の雑司ヶ谷霊園 施策の変遷

一般墓域の拡大や使用に関する制限・納骨堂の設置など面積の拡張以外にも墓地の確保を図る施策が行われてきました

特殊な埋葬地

霊園に関する公文書には、一般使用以外の墓地の設置の記録もありました。特に明治末期に多く見られ、外国人墓地や同時期に廃止された深川からの移転墓地、その他特殊な事情を持った者のための公葬地などの存在が確認できます。外国人墓地や深川移転墓地は現在もその一部や石碑が残っていますが、公葬地などは現在は管理事務所や「崇祖堂」(納骨堂)がある位置に存在していました。

当時の周辺地域の社会背景や、共葬墓地としての霊園に求められていた役割がよく現れていますね。

雑司ヶ谷霊園と地域の関わり

明治初期に開設された都立霊園は、公衆衛生などの都市計画的な配慮しつつ東京で新たな墓地を確保する、という墓地政策のもとでつくられたものでした。既存の私有地を買収した上での拡張計画が行われた雑司ヶ谷霊園は、特に地域全体を巻き込んだ、都市計画的な意味合いも大きいものだったと言えます。

かつて農村集落だった霊園の地は、近代化と共にその姿が大きく変わりました。公共空間として多くの人に開かれた場となった今、雑司ヶ谷霊園がこれまで以上に地域にとって有意義な場所となっていくことに期待したいです。

(文責 中村 友莉花)



ぞうこう防災 2024

11月24日(日)に雑司が谷公園にて「ぞうこう防災2024」が行われました。このイベントは、「楽しみながら学ぶ防災」をテーマに、災害時を想定して行われるものです。

雑司が谷公園は、災害時の拠点となる救援センターとしての機能をもつ公園であるものの、避難所として区民を収容できるほどの面積はありません。そのため、災害時には一時集合場所や災害物資の供給など、他の救援センターを補完する場所として役割を果たします。また災害時には、住民が自主的に運営する必要があるため、このイベントは運営を含む参加者全員にとって学びのある機会となっております。

当日は多くの人で賑わい、防災クイズで知識を深めたり、かまどベンチの炊き出し体験や災害用トイレの見学をするなど、災害時の意識を高める取り組みへの積極的な参加が見られました。

また、運営者がそれぞれ所属する町内会や団体のベストを着てイベントを行い、参加者が自分の地域の活動の活発さを認識できる機会となったとともに地域間の交流のきっかけにもなりました。

イベント運営

ぞうこう防災は、町内会長を含めた町内会の方々が運営者となって自主的に開かれています。イベントの準備は約1年。会議では、災害時の迅速な対応を目的に実際の避難所運営に繋がるようなイベント運営内容の改善が行われています。昨年は、町会ごとのジャケッツが作成・使用されました。今年は、スタッフが腕章をつける取り組みが行われました。これは、災害時に避難所運営者が腕章をつけることで、運営者を識別しやすくすることを想定しています。

また、イベントは町内会の方々以外にも、豊島消防署や目白警察など、地域の団体と連携して開催されており、今年は千登世橋中学校ジュニアスタッフの皆さんが初期消火訓練に参加しました。



出題されたクイズに挑戦してみよう!

- Q1 消火器の使用期限は?
 ① 20年 ② 15年 ③ 10年 (A. ③)
- Q2 煙が上に拡散する速さは?
 ① 1秒で0.5〜3m
 ② 1秒で2〜5m
 ③ 1秒で3〜5m (A. ③)
- Q3 非常時も災害用トイレが使えるよう貯めてある雨水の量は?
 ① お風呂1000杯分
 ② お風呂400杯分
 ③ お風呂800杯分 (A. ③)
- Q4 災害時、自宅の水洗トイレを使う前にすべきことは?
 ① 破損していないか確認
 ② トイレを清潔な状態にする
 ③ トイレの水を一度流す (A. ③)

- (A. ①) 見た目が壊れていなくても、配水管が壊れている場合があります。



かまどベンチ



非常用トイレ 照明

災害時の雑司が谷公園

雑司が谷公園には、防災施設や設備が充実しています。イベントで使用された「かまどベンチ」は、ベンチの足部分にかまどがあり、座板を外すことで使用できます。公園内には計10か所設置されており、イベントではお味噌汁の炊き出しが行われました。

また、普段は閉鎖されている「非常用トイレ」の見学も行われました。このトイレには、天井にはダクトを通して入ってきた太陽光を利用した照明が設置されており、窓や電気が無くても室内を明るく照らす工夫がされています。さらに、地下の貯水タンクには雨水が貯められ、その水を利用することで非常時でもトイレを使用することができます。

Part 2 近隣住民の雑司ヶ谷霊園利用の変化 大西 明

Part 1は「ぞうしがやがやたんけん〜景観をつくるモノたち〜」に掲載しています

過去	遊び場としての利用 →身近なオープンスペース
現在	<ul style="list-style-type: none"> 通勤・通学 目的地への通り道 植物の維持管理 →生活の中に霊園の存在

周辺の都市整備に合わせた利用の変化

雑司ヶ谷霊園の利用の方法についての調査が行われました。霊園内の空間を特徴として、「墓」と「道」が挙げられます。行為・住民の関心事との関係を考察しました。

研究の結果、過去には遊び場利用が多く、霊園を身近なオープンスペースとして利用していた一方、現在は通勤・通学に加え、霊園の花の生育管理が、身近に生活の中で存在していることが分かりました。

また、都市整備での変化も見られ、都電の廃止や東京メトロ副都心線の開業、サンシャインの開業により、池袋方面へのアクセスで通り抜けることが増えたという「目的地へ向かう通り道として利用」の指摘もありました。

